



2020 春

樹齢200年の広葉樹 一枚板テーブル

山と森、木と人々の暮らしを一本の糸でつなげたい

松葉屋家具店＋くらし道具学研究所

山と森、木と人々の暮らしを一本の糸でつなげたい

私たちの小さな一歩ですが、その行動がはじまりました。

森へいくツアー

小谷村「^{おあみ}大網」で山村の暮らしを体験して、針葉樹と広葉樹が混ざり合った大町の森林を歩きます。
季節ごとにその土地でできる山や木を使った体験を企画しています。



北信濃の山の木で家具をつくる

身近な山で育った広葉樹を自分たちで選び、
伐採し製材・乾燥ののち、家具をつくります。



森の中にまちがある。 一歩プロジェクト

建物をつくるかわりに、小さな森
をつくる作業を始めました。



今は小さな点と点。すこしずつ一本の糸につなげていきます。

詳しくは松葉屋通信やブログでレポートしています。 <http://matubaya-kagu.com/blog>



松葉屋家具店＋くらし道具学研究所
〒380-0841 長野市大門町 45

TEL : 026-232-2346
FAX : 026-237-4558
Email : since1833@matubaya-kagu.com
定休日 : 火曜・水曜(木曜は予約制)
HP : <http://matubaya-kagu.com>
Facebook : <https://www.facebook.com/matubaya>



杵に収まりきらない

四角ではない。まん丸ではない。もちろん三角でもない。
曲がったりのびたり、縮んだり、言葉にできない。
どこにも属さない。おまえは枠に収まる気もない。

居場所

雑用に追われて、自分を失いそうになる日々の暮らしも、日常から離れて安らぎを持つ一瞬も、これもあれも受け入れてくれる。自分たちだけの居場所なんだと思う。

磨き上げる

古い木造校舎を思いうかべてみる。
床が何年もの何十年も雑巾で拭き上げて
角が取れ、擦れてなめらかになっている。
黒々と底光りする磨き上げられた木の床。
家具職人の手技は素早いが慎重に、
家持を込めておまえを磨き上げる。
植物の油が導管に沁み入り、
湿度湿度や呼吸を保つ。

集まる

いつもは離れ離れでも。集合、解散。
集まったり離れたり。何十年たっても
あの時が思い出される場所。
なぜだろう？
おもえに付いた傷ひとつシミひとつが
タイムカプセルを掘り出すように
あれこれ思い出されて。

まん中

真ん中、中心地、重心点、言いようはちがうが、そこがおへそだってこと。
この一枚板テーブルがあるところが家族の真ん中、家の真ん中だということ。
なぜか人が集まる。知らず知らずのうちに。

心を映す

空を見る。磨き上げた木をみる。
あるところは澄み切ってわだかまりも曇りが無い清流のような静かな流れ。
あるところは深い溪谷。そして濁流は増水して山々も押し流す。
でもおまえに意図はない。
見る人の、僕の心をただ写してるだけなんだね。

時を部屋に置く

時間は重なるもの。0.1mmでも欠けることは無い。
ただただ積み重なるもの。
樹齢200年の一枚板。
時間が部屋に滲み出ていくのを感じる。

居ごこち

そばに近づいてみる。
おまえから遠ざかって覗いてみる。
落ち着き、心が許せる。離れがたい場所。
呼吸が深くゆったりと、心拍数が同調して
一体になったような居ごこち。

そそる

おまえを手で撫でてみる。
平坦な肌触り。指先に感じるすべらかで、柔らかく、
なのにひんやりとした硬質感。
導管の微細な突起が指先を優しく刺激する。
気持ちが溢れ出る。感情が高ぶる。



一生使える家具しかつくらない

そこにこだわるから、松葉屋家具店だと思う。

七代目店主 滝澤 善五郎

モノの一生を考える

モノの命のゆくすえを見極めたいと考えました

今日発芽しても
次に出会えるのは遥か百数十年後。

植物は枯れるまで1ミリでも成長を続けると言う。
成長が生きる証ということなのか。
人の手で切られ、削られ、磨かれるのは人間の勝手なのだし、
同じように切られ薄くスライスされ、ベニアとして安価に消費
されるのも人間の勝手なのだと思う。
樹齢百年とか数十年の広葉樹となるとそう簡単に出会えるもの
ではない。実際にテーブルとして使えるような樹に育つのは
奇跡。かけがえのない樹、その先には2つの道がある。

ひとつの道

「ほんの数年後には
捨てられてしまう家具」

長野市の清掃センターで見たこと。
奈落のような巨大なごみピットに吸い込まれていく
膨大なゴミ。ワニの口のような機械に椅子やテーブ
ル、タンスが放り込まれ、粉碎され焼却されていく。
何でも容易に安価で手に入る時代は
捨てるのも簡単になってしまったのだろうか。



もうひとつの道

「100年後も大切に
使いつづけられる家具」

山の樹から丹念に選定し、心をかけて伐採する。
何年あるいは10年以上もかけて製材から乾燥を
経て、ようやく職人が心を込めて作り上げてい
く。傷ひとつ、シミひとつが家族の歴史となっ
て、使い込むことが愛着に変わっていく。
何十年あとも直し、繕い、使い続けることでそ
こに新たな命が吹き込まれる。



枺^{トナ}

北海道、本州、四国、九州に自生しています。全体に淡い紅黄白色から淡黄褐色で絹のような光沢が美しい材です。

腕を大きく広げるように、
あらゆるものを受け止めて、
おおらかに育ってきた木。



2

樹種：枺
幅：1860 × 1025 ~ 760mm
長：755mm
厚み：49mm
(6人用)

欂^{ケヤキ}

本州、四国、九州に自生しています。日本の広葉樹の中でも第一の良材として古くから寺社建築や民家の大黒柱、床の間などに使われています。明瞭でつやのある年輪が特徴です。

大きく枝分かれする時に立った波風も、
今はこんなに美しい木目になる。



1

樹種：欂
幅：770 ~ 780 ~ 945mm
長：2800mm
厚み：52mm
(6~8人用)

水目桜

ミズメザクラ

日本特産の材で本州、四国、九州の深山に自生し、樹高は20mに達するものもあります。辺心材の境目は明瞭で心材は黄色みを帯びた白、心材は紅褐色。硬くて弾力のある木です。

光を受けてキラキラと、
反射する水模様。
緩やかに蛇行する川面の景色。



3

樹種：水目桜
幅：1040～760～1020mm
長：2175mm
厚み：50mm
(6～8人用)

板屋楓

イタヤカエデ

北海道から本州、四国、九州に自生しています。年輪や辺心材の差は不明瞭で全体にやや赤みを帯びた白色から淡紅褐色です。材は重硬で粘りが強く曲木に適しています。

輝くような白い木肌は、
年月を経てアメ色になる。
家族と共に同じ時間を過ごしながら。



4

樹種：板屋楓
幅：690～680～670mm
長：2120mm
厚み：48mm
(5～6人用)

枹^{トチ}

北海道、本州、四国、九州に自生しています。全体に淡い紅黄白色から淡黄褐色で絹のような光沢が美しい材です。

ほのかに光を放つような、白く、きめ細かく滑らかな木肌に、離れがたい思い。



6

樹種：枹
幅：2095 × 800 ～ 8300mm
長：880mm
厚み：53mm
(6～8人用)

楠^{クス}

関東以南の暖地、特に海岸に多い木です。芳香が強くそのままでも虫害を防ぐ効果があります。玉杓や葡萄杓などの奇麗な杓が現れます。

いろいろなことがあってね・・・と言葉少なに語りかけてくるような、見て取れるような節や木目、形。



5

樹種：楠
幅：900 ～ 650 ～ 790mm
長：2015mm
厚み：45mm
(4～6人用)



榿^{ケヤキ}

本州、四国、九州に自生しています。日本の広葉樹の中でも第一の良材として古くから寺社建築や民家の大黒柱、床の間などに使われています。明瞭でつやのある年輪が特徴です。

一枚板は、川の表情と重なる。
干上がることのない大きな流れ、
黄河のように。



8

樹種：榿
幅：840～835mm
長：1820mm
厚み：48mm
(4～6人用)



栃^{トチ}

北海道、本州、四国、九州に自生しています。全体に淡い紅黄白色から淡黄褐色で絹のような光沢が美しい材です。

大麻帯の川晒し。
水面にもまれて金色にたなびきながら、
やがて晒され、柔らかく育っていく。



7

樹種：栃
幅：1635×680～630mm
長：690mm
厚み：47mm
(4～5人用)

楠^{クス}

関東以南の暖地、特に海岸に多い木です。芳香が強くそのままでも虫害を防ぐ効果があります。玉杓や葡萄杓などの綺麗な杓が現れます。

美しい岩絵の具の絵をみているような、
ひと筋ひと筋の微妙な色の違いと
流れるような線の動き。



10

樹種：楠
幅：820～790～930mm
長：1895mm
厚み：50mm
(4～6人用)

タモ

北海道に多く、本州北・中部にもわずかに分布し湿った山地に多く生育しています。年輪は明瞭で美しい杓を有します。弾力性に富むのでパッドやラケットなどの運動具材としても使われます。

茶系の濃淡だけであらわしたような、
すっきりとまっすぐな、
色と木目のシンプルモダン。



9

樹種：タモ
幅：870～810～870mm
長：1800mm
厚み：54mm
(4～6人用)



枺^{トナ}

北海道、本州、四国、九州に自生しています。全体に淡い紅黄白色から淡黄褐色で絹のような光沢が美しい材です。

芯のある心をもって、
幅広くいろんなことに興味をもって、
まっすぐに育った木。



12

樹種：枺
幅：850～900～840mm
長：2000mm
厚み：54mm
(4～6人用)



枺^{トナ}

北海道、本州、四国、九州に自生しています。全体に淡い紅黄白色から淡黄褐色で絹のような光沢が美しい材です。

穏やかさと荒々しさと、
両方を兼ね備えている、
心魅きつけられる存在。



11

樹種：枺
幅：730～690～790mm
長：1900mm
厚み：60mm
(5～6人用)



枺^{トナ}

北海道、本州、四国、九州に自生しています。全体に淡い紅黄白色から淡黄褐色で絹のような光沢が美しい材です。

広葉樹の森のせせらぎ。
地味あふれる豊かな水に
魚も虫もあつまってくる。



14

樹種：枺
幅：1770 × 1010 ～ 880mm
長：790mm
厚み：50mm
(4～5人用)



欂^{ケヤキ}

本州、四国、九州に自生しています。日本の広葉樹の中でも第一の良材として古くから神社建築や民家の大黒柱、床の間などに使われています。明瞭でつやのある年輪が特徴です。

欂には珍しい明るい黄色。
ゆらゆらゆれる、ろうそくの灯りの色。



13

樹種：欂
幅：700 ～ 650 ～ 730mm
長：2100mm
厚み：49mm
(4～6人用)

檜^{ナラ}

北海道から九州に自生しています。特に北海道産が質・量ともに有名です。辺材は灰白色、心材は暗灰褐色。材は重硬で、ブナとともに曲げ木の材料に適します。

檜らしい木肌を堪能できる、コブの丸いラインとかすれたような表皮の色味、虎斑。

（彼は信州の高圧鉄塔設置のため切り倒されたのだった。）



I5-D

樹種：檜
幅：385～250～575mm
長：2970mm
厚み：42mm



I5-C

樹種：檜
幅：300～450～630mm
長：2970mm
厚み：42mm



I5-B



I5-A

I5-A

樹種：檜
幅：550～530～590mm
長：2850mm
厚み：40mm

I5-B

樹種：檜
幅：550～600～650mm
長：2800mm
厚み：40mm

欂ケヤキ

本州、四国、九州に自生しています。日本の広葉樹の中でも第一の良材として古くから寺社建築や民家の大黒柱、床の間などに使われています。明瞭でつやのある年輪が特徴です。

大きく枝葉を広げる欂の要になってきたところ。どっしりとした、安定感を感じる。



16

樹種：欂
幅：800～890mm
長：840mm
厚み：64mm
(1～2人用)



欂ケヤキ

本州、四国、九州に自生しています。日本の広葉樹の中でも第一の良材として古くから寺社建築や民家の大黒柱、床の間などに使われています。明瞭でつやのある年輪が特徴です。

思春期から自立するまで、くっついたり、すきまができたり。いろいろだけど、今は一緒に葉を茂らせている。



17

樹種：欂
幅：750～950～1040mm
長：2070mm
厚み：55mm
(6～8人用)





樹種: 桧
サイズ: 2330×770～1050～950×70



樹種: 山桜
サイズ: 2150×750～830～920×53



樹種: 檜
サイズ: 2000×580～450～490×50



樹種: 桧
サイズ: 2115×940～840～790×50



樹種: 水目桜
サイズ: 2100×540～480～640×45



樹種: 桧
サイズ: 800～750～880×2000



樹種: 桧
サイズ: 1850×910～770～850×55



樹種: 桧
サイズ: 2000×800～830～790×50

毎日楽しみながら、団らんをすごす。
大切な家族の大事な居場所として選ばれた、それぞれの一枚板。
まっさらなテーブルは、家族史を刻みながら、色つやを重ねて
味わい深いかけがえのないテーブルに育っていきます。
その日がくるのが楽しみです。



樹種: 楠



樹種: 水目桜
サイズ: 2100×540～480～640×45



樹種: 枺
サイズ: 680～740～840×1650



樹種: 板屋楓
サイズ: 1750×900～850～950×58



樹種: けやき
サイズ: 800～1000～900×2100



樹種: 胡桃
サイズ: 780～910～980×2160



樹種: 枺
サイズ: 810～990×1700



樹種: 栗
サイズ: 980～940～1100×2180



樹種: 枺
サイズ: 880～900～1080×2400×60

松葉屋の一枚板は全て日本の山で育った広葉樹です。

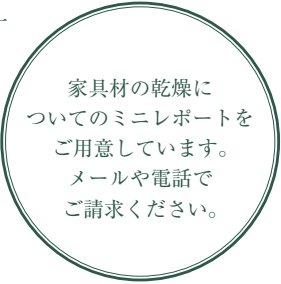
ひとくちに広葉樹といっても多種多様。主に下のような材を使っています。

胡桃・クルミ		楠・クス		板谷楓・イタヤカエデ	
クルミ科 クルミ属の落葉広葉樹 北海道から本州、四国、九州に自生しています。主に、山中の湿地に生え、あまり大径木にはなりません。辺材は灰白色、心材は褐色を表します。優しい杣目で加工性も高く、椅子などに使われます。		クスノキ科 常緑広葉樹 関東以南の暖地、特に海岸に多い木です。芳香が強くそのままでも虫害を防ぐ効果があります。玉杣や葡萄杣などの綺麗な杣が現れます。		カエデ科カエデ属の落葉広葉樹 北海道から本州、四国、九州に自生しています。年輪や辺芯材の差は不明瞭で全体にやや赤みを帯びた白色から淡紅褐色です。材は重硬で粘りが強く曲木に適しています。	
黄檗・キハダ		栓・セン		欂・ケヤキ	
ミカン科 落葉広葉樹 北海道、本州、四国、九州に自生しています。辺材は白黄色、心材は緑色を帯びた黄褐色です。樹皮は苦味があり黄色く染色剤にも使われ、生薬名を「オオバク」といい胃腸薬や火傷の薬としても使われます。		ウコギ科 ハリギリ属の落葉広葉樹 日本各地に自生していますが多くは北海道です。辺材は淡黄白色、心材は淡灰白色で年輪はくっきりと出る事から摺漆で上げるととても美しいです。		ニレ科 ケヤキ属の落葉広葉樹 本州、四国、九州に自生しています。日本の広葉樹の中でも第一の良材として古くから神社建築や民家の大黒柱、床の間などに使われています。明瞭でつやのある年輪が特徴です。	
水目桜 ミズメザクラ		檜・ナラ		栃・トチ	
カバノキ科 カバノキ属の落葉広葉樹 日本特産の材で本州、四国、九州の深山に自生し、樹高は 20m に達するものもあります。辺心材の境目は明瞭で心材は黄色みを帯びた白、心材は紅褐色。硬くて弾力のある木です。		ブナ科 コナラ属の落葉広葉樹 北海道から九州に自生しています。特に北海道産が質・量ともに有名です。辺材は灰白色、心材は暗灰褐色。材は重硬で、ブナとともに曲げ木の材料に適します。		トチノキ科 トチノキ属の落葉広葉樹 北海道、本州、四国、九州に自生しています。全体に淡い紅黄白色から淡黄褐色で絹のような光沢が美しい材です。板目面に著しいリップルマーク（さざ波模様）が現れることがあります。	
栗・クリ		タモ		山桜 ヤマザクラ	
ブナ科 クリ属の落葉広葉樹 北海道西南部から本州、四国、九州に自生しています。タンニンを多く含む材は、年数が経つと徐々に濃くなり栗色から黒褐色に変化します。重硬で弾力に富み水湿にも強い材です。		モクセイ科 トネリコ属 北海道に多く、本州北・中部にもわずかに分布し湿った山地に多く生育しています。年輪は明瞭で美しい杣を有します。弾力性に富むのでバッドやラケットなどの運動具材としても使われます。		バラ科 サクラ属の落葉広葉樹 本州、四国、九州に自生しています。辺材は淡い黄褐色、心材は褐色で時に暗緑色の縞模様が現れます。木肌は緻密でなめらかです。加工性にも優れ、磨くと光沢が出ます。	

Q&A

反ったり割れたりはしないのでしょうか。

A：現在の住宅は高気密高断熱の住宅を代表に非常に乾燥している場合が多いため、木材が十分に乾燥されていないと反りや割れが生じてしまいます。反ったり割れたりしないためには「乾燥が命」なのです。松葉屋の一枚板テーブルは、住宅の環境に合わせた含水率（10% 前後）に仕上げるため、数年の自然乾燥ののち人工乾燥機に入れ、十分な時間をかけて乾燥させます。仕上げには乾燥業者さんの長年の経験による方法で、蒸気と熱を加える「木がため」を行うことで木が水分の影響を受けづらく、狂いの少ない材に仕上げます。



板はどんな仕上げをされているのでしょうか。

A：松葉屋は、製材から乾燥に数年かけたのち、表面を磨き上げ、仕上げに化学塗料を一切使わず、植物性自然塗料を使用しています。半年から、一年に一回ご自身でお手入れしていただくことで、本当の木の美しさに育っていきます。

キズやシミはつきますか？

A：結露したコップを置いたり、熱い急須を直接置いたときにできるシミや、油っぽい食べ物をこぼしたときにできる油ジミ。硬いものが当たるとできるキズ。こうした日常のシミやキズはついてしまった時はかなりショックかもしれませんが。でも経年変化で変わる木の色合いと共に、日々使った証としてキズやシミを残していくことで愛着がわき、ご自分で育てたアンティーク家具となっていきます。また、オイル仕上げの家具はご自身でのお手入れが簡単にできますので「Q：シミやキズがついたらどうしたらいいですか？」をご参照ください。

シミやキズがついたらどうしたらいいですか？

A：「水ジミ」「油ジミ」などの日常の汚れには、植物性石けんで泡立てるように全体を拭き、木目にそって紙ヤスリをかけ、最後に植物性オイルで仕上げるというお手入れが効果的です。ご購入後、約3ヶ月ほどの後に松葉屋からお手入れセット（紙ヤスリ・石けん・オイルのセット）をお送りしています。お手入れすることが楽しくてたまらなくなるのが一枚板のテーブルです。

遠くに住んでいるのですが、大きな一枚板テーブルでも送っていただけるのでしょうか。

A：ご遠方の方でもお届けさせていただきます。配送には松葉屋の自社便、または「家財宅配便」という小型の引越便を利用してお送りします。お届けからお部屋への設置、セッティングまでいたしますのでご安心ください。

今使っているテーブルは引き取っていただけますか。

A：事前にお申し付けください。処分については有料になることもありますので、ご相談ください。

一枚板テーブルって重たいですよね？

A：松葉屋の一枚板は全て日本の山で育った広葉樹材です。杣や色合いが美しいだけではなく程よい硬さと重さを持ち合わせています。一時期流行した唐木（コクタン、シタン、タガヤサン）や、アフリカ産材などの硬く重い外国材などのイメージから「一枚板テーブルは重い」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが。国産広葉樹材は 150cm 程度のテーブルであればお二人でも十分取り回しが可能です。お引越などによる家具の移動や宅内での移動などでお困りの場合、有料になりますがお手伝いできますのでご相談ください。



製材

巨木が吊り上げられ、大音響とともに木の形状や、杻、
状況を見極め、製材されていきます。
木が「生き物」だと実感させられる一瞬です。
そのたびに現れる杻目が見事です。直径1mを超える巨木でも、
一本の丸太からとれる中で私たちのテーブル天板制作に
ふさわしい一枚板は運がよくて2、3枚です。



信州産の山桜を選定しています。

銘木市

日本は森の国。
深い山を背景に、いにしえより森の民は木を伐り、木を燃やし、
暮らしの道具を作り、そして森を育ててきました。
時代は流れても、暮らしのかたちが変わっても、
「木の底力」を知っている人たちがいる。
豊富な樹種の原木が集められている、日本でも指折りの場所です。

